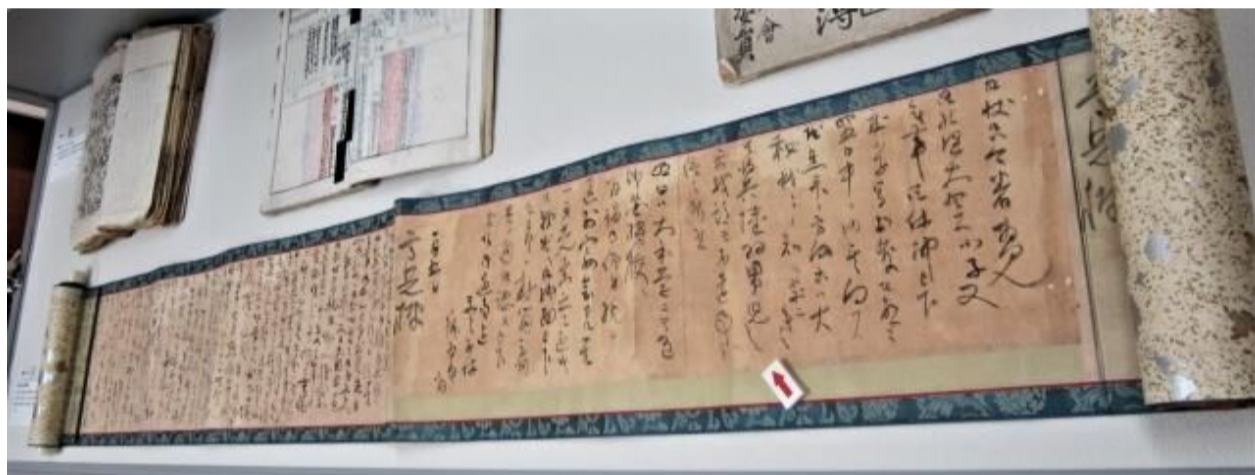


日清戦争

歴史のコトノハ

日清戦争は、近代日本が初めて経験する対外戦争で、1894（明治27）年から翌年にかけて行われた、朝鮮半島の支配権をめぐる日本と清国との戦争でした。日本は、総兵力24万余人を動員し、戦死者1,415人、戦病死者11,894人に及びました。秋田県の戦死者17人、戦病死者694人でした。

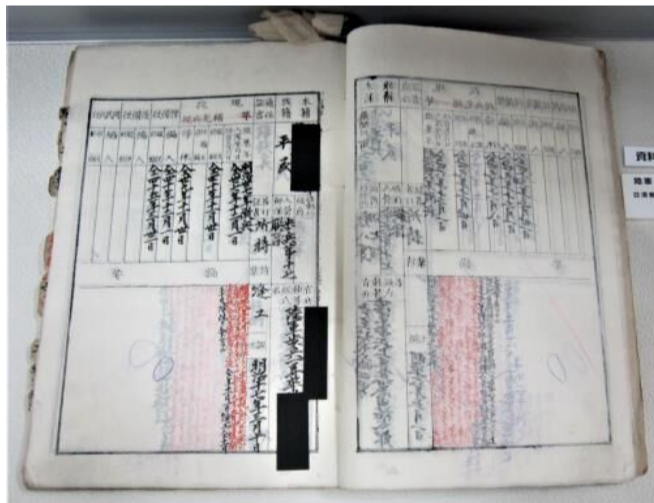
1894年9月、平壤の戦い・黄海の戦いに勝利した日本は、清国の大連・旅順、台湾を占領し、イギリス・アメリカの仲介により清国と日清講和条約に調印しました。その結果、日本に対する賠償金3億円と、遼東半島・台湾・澎湖島が割譲されました。しかし、遼東半島の割譲をめぐり、ロシア・ドイツ・フランスは、日本に対して清国へ遼東半島の返還を勧告し（三国干渉）、日本は遼東半島を放棄することになります。三国干渉後、日本は「臥薪嘗胆」のスローガンのもと、対ロシア戦争へと向かいます。



西野虎五郎書簡（明治27～28年）

日清戦争に従軍した陸軍歩兵大尉西野虎五郎からの手紙。隊が向かう場所は大秘であるとし、「陸羽男児之勇戦期モ不遠事ト信シ居候」と書かれている。

（個人蔵）

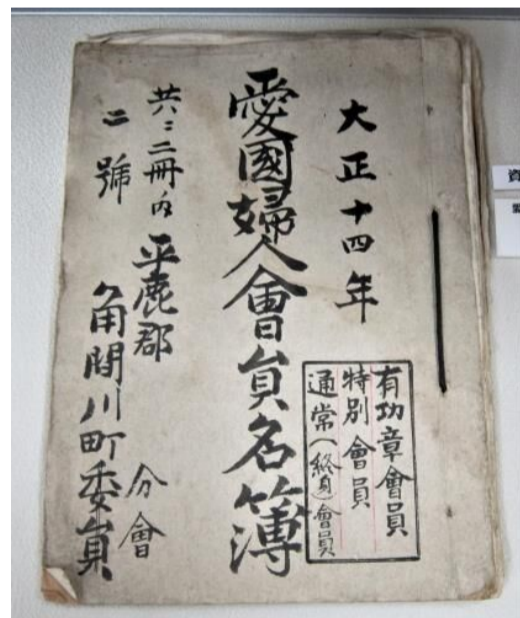


陸軍兵籍名簿 角間

川町（明治～）

日清戦争以降の個人の軍歴を記したもの。

（角間川町役場文書）



愛国婦人会員名簿 平鹿郡角間川町分会（大正14年）

愛国婦人会は、日清戦争後の明治34年に創設された婦人団体。国防及び戦死者の遺族・傷病兵を救うために結成された。

（角間川町役場文書）



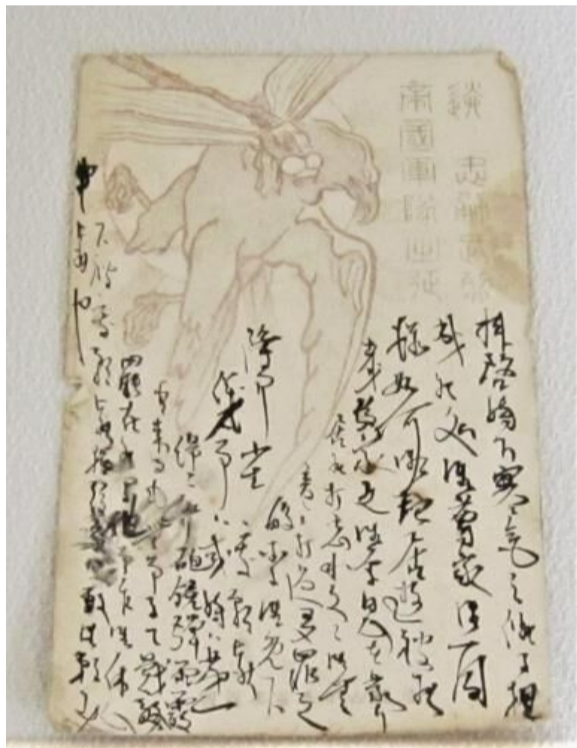
愛国婦人会秋田支部第1回総会

池田家所蔵

に ち ろ 日 露 戦 争

歴史のコトノハ

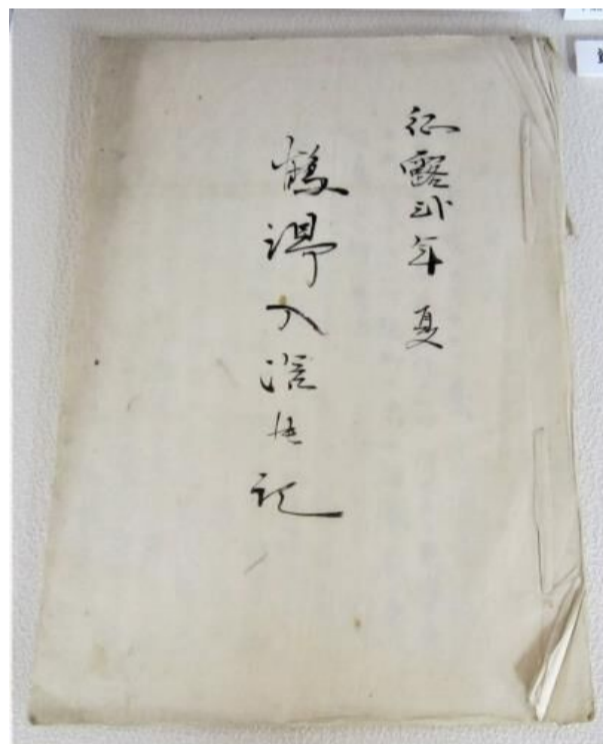
朝鮮半島と満州の支配権をめぐり、明治 37 (1904) ~38 年に日本とロシアとの間で日露戦争が勃発し、旅順の戦い、奉天会戦、日本海海戦で日本は辛くも勝利を収めました。講和条約では、日本が南樺太の権利を得て、ロシアから朝鮮半島支配を認められましたが、賠償金はもらえませんでした。秋田県出身者の多くが所属した秋田歩兵第 17 連隊では、戦死者 1,016 名、戦傷者 3,167 名を出しています。



葉書 (明治 38 年)

日露戦争の戦地からの葉書。対露戦争の状況が書かれている。

(平瀬家資料)

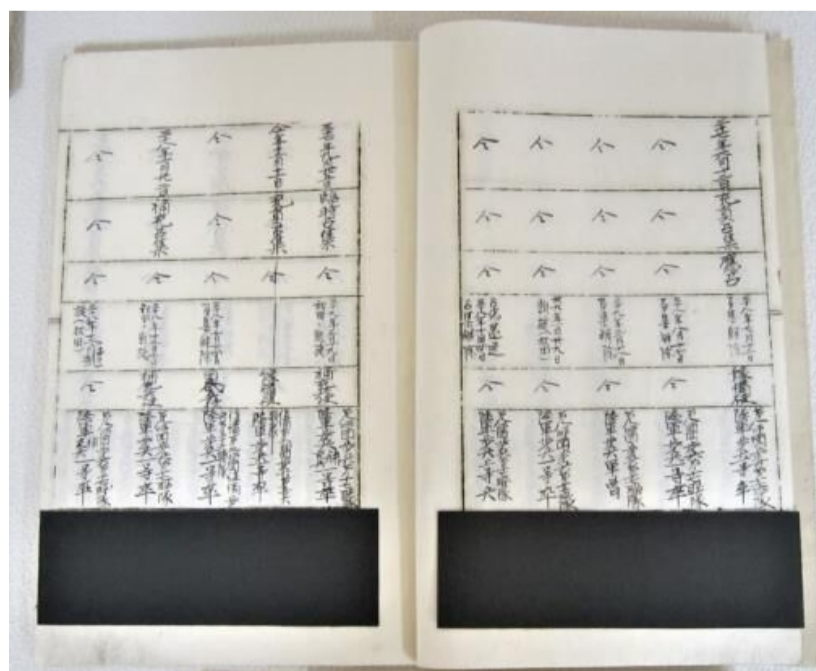


征露二年夏 鶴湯入浴の記 (明治 38 年)

湯治日記の年代として「征露」=日露戦争 2 年

(明治 38 年) という表記が見られる。当時の人々の日露戦争に対する関心の高さがうかがえる。

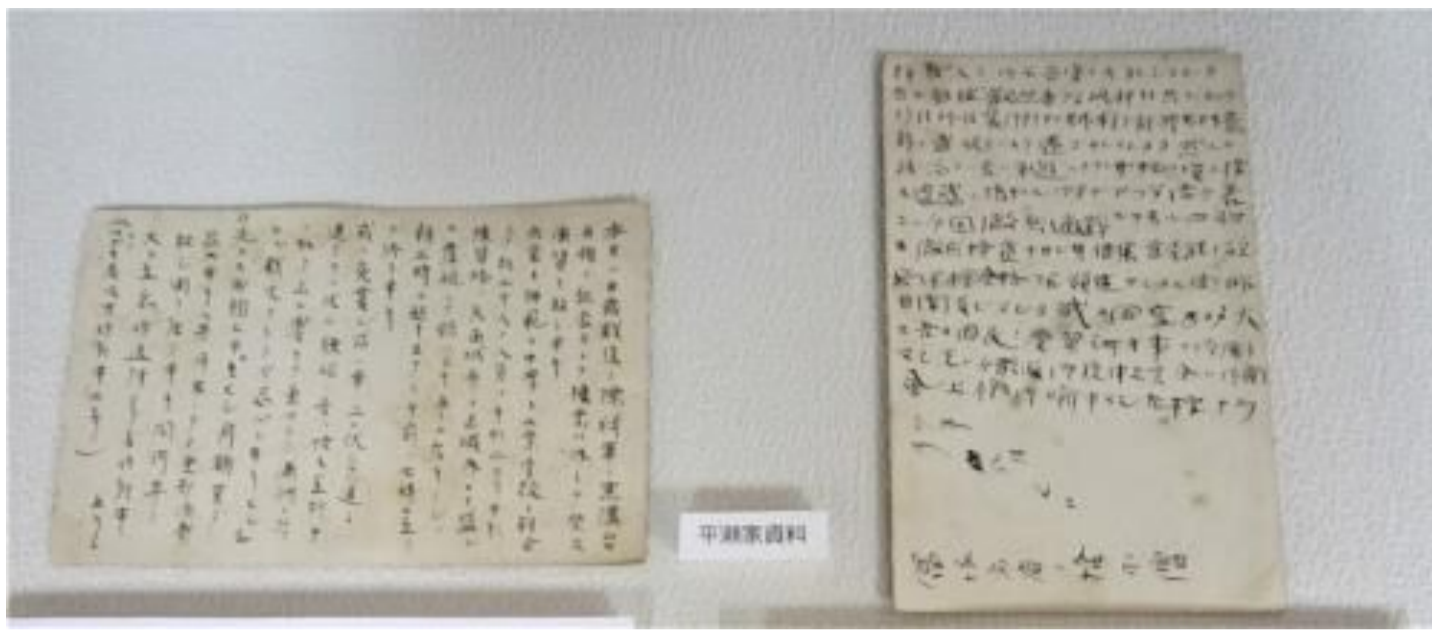
(平瀬家資料)



日露戦役本村誌 仙北郡大沢郷村役場 (明治 37~38 年)

大沢郷村から日露戦争へ出征した兵士の経歴簿。

(大沢郷村役場文書)



葉書 (明治 39 年)

日露戦争の凱旋歓迎会の盛況な様子や、徴兵検査の結果についてのお祝いなどが書かれている。

(平瀬家資料)

葉書 (明治 43 年)

1月28日が日露戦争・黒講台占拠記念日のため、秋田師範学校では授業は休校で、発火演習が行われたことなどが書かれている。

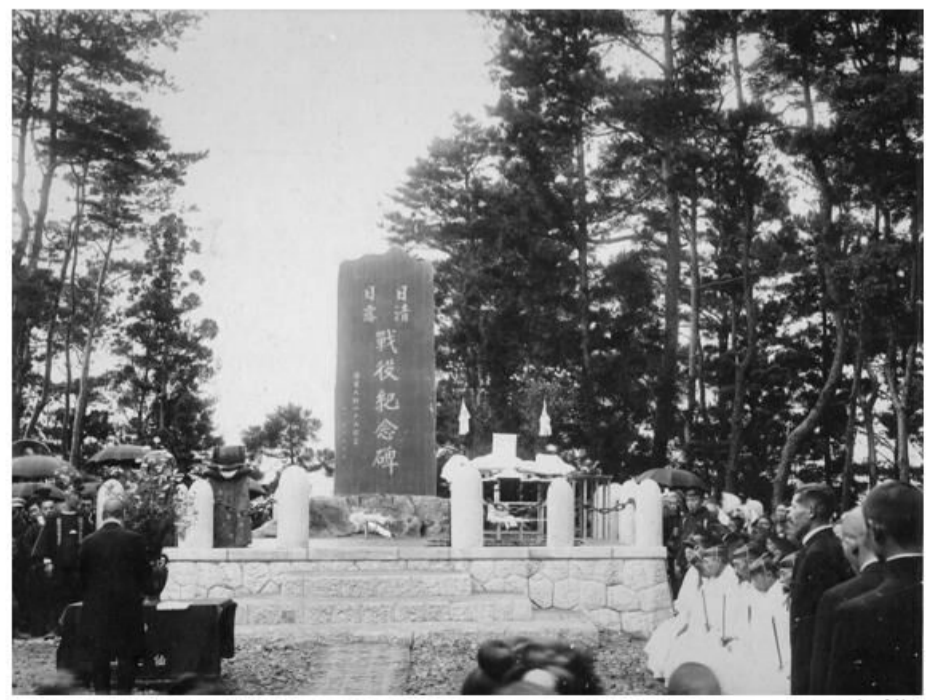
(平瀬家資料)



葉書 3通 (大正 2 年)

秋田第十七聯隊第一中隊六週間現役兵となっていた平瀬三郎から父政吉に宛てた葉書。兵役中の様子が綴られている。

(平瀬家資料)



日清日露戦役記念碑

池田家所蔵



海軍協会員名簿 角間川町役場 (昭和10年)

海軍協会への勧誘文が綴りこまれている。海軍協会とは、海軍と国防について議論し、海軍を後援する社団法人。

(角間川町役場文書)



第二国民兵 戦時名簿 角間川町 (明治~大正)

第二種戦時名簿。角間川から徴兵され、出兵した兵士の名簿。招集から除隊までの経歴が書かれている。

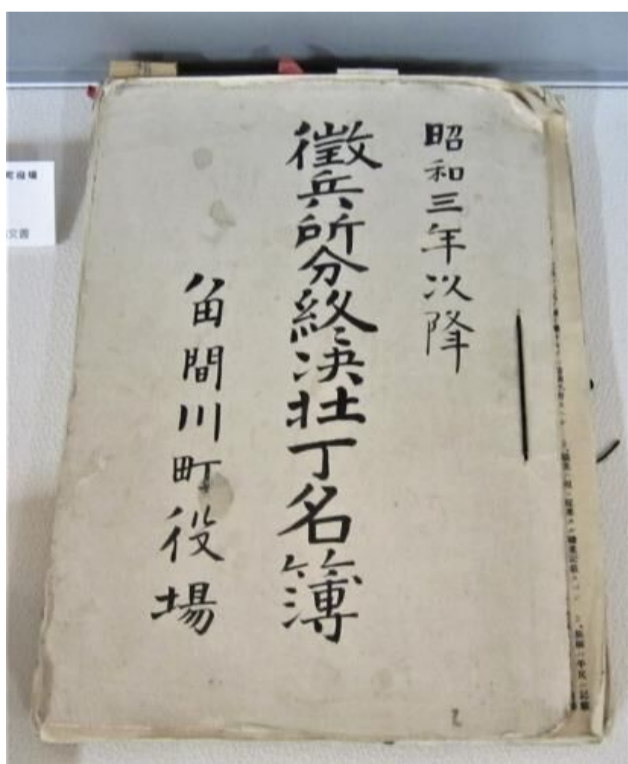
(角間川町役場文書)



往復文書綴 大沢郷村分会 (昭和5年)

大沢郷村の在郷軍人会分会の文書。昭和5年当時、213人（海軍208、陸軍5）の現役在郷軍人がいたことがわかる。

(大沢郷村役場文書)



徴兵所分終決壮丁名簿 昭和三年以降

角間川町役場 (昭和3年~)

昭和3年から終戦までの角間川町の徴兵のための壮丁名簿。

(角間川町役場文書)